

## 人間と文化

## 医療の人類学

《担当者名》教授 / 花淵 馨也 (看護福祉学部) hanab@hoku-iryō-u.ac.jp

## 【概要】

「病い」は生物医学的に決定されるだけでなく、人が生きる社会や文化のあり方とも深く結びついた現象である。この授業では、現代社会において増加している「拒食症」、心の性と身体の性が一致しない性同一性障害などを含む「LGBTQ」、これら「食」と「性」という人間の基本的営みに関わる二つの問題についてとりあげ、病いを社会や文化の文脈において捉える医療人類学の視点から考察する。

## 【全体目的】

病いや障がいを広い社会的・文化的コンテキストにおいて捉えるための視点を身に着ける。

## 【学修目標】

病いや障がいを社会的・文化的に構築される現象として相対的に捉える医療人類学的視点と方法を説明できる。  
現代社会における人の生活と病いや障がいとの関係について広い視野から捉える能力を身につける。  
医療の基盤となる深い人間理解と、社会の未来を切り拓くための教養を養う。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	講義全体の内容と目的の説明。	花淵 馨也
2	人間にとって食とは	食と身体の人類史について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 1), 2)	花淵 馨也
3	病いの起源	人類進化と病気の関係について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-3-1 1), 2)	花淵 馨也
4	拒食症とは	拒食症の特徴と実態について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1), 2), 3) B-3-1 1), 2)	花淵 馨也
5	グループワーク ：なぜ拒食症が増加しているのか？	現代社会における拒食症増加の環境要因について分析できる。 多様な価値観を認め、異なる考えをもつ他者と意見を交わす能力を高める。 【SGD】 関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1), 2), 3) B-1-2 1), 2), 3) B-3-1 1), 2)	花淵 馨也
6	器としての身体	具体的事例を通じて、拒食症患者の身体や食に対する歪んだ認識について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1), 2), 3) B-3-1 1), 2)	花淵 馨也
7	現代社会と女性の身体	拒食症増加の社会的・文化的要因について説明できる。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1), 2), 3)	花淵 馨也

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		B-3-1 1),2)	
8	共食と孤食	現代社会のフードスケープと食事の社会的機能について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1),2),3) B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
9	ジェンダーとセクシャリティ	文化としての性の規定と境界の性について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
10	LGBTとは	性別二元論と性の医療化について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
11	第三の性ヒジラとトイレ論争	異文化におけるトランスジェンダー文化について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
12	残された問題と当事者の声	LGBTの課題と当事者が抱える苦悩について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1),2),3) B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
13	多様な愛のかたち	具体的事例を通じて、LGBTの愛のかたちの多様性について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
14	ディベート：同性婚について	同性婚の問題について多角的な視点から分析できる。 多様な価値観を認め、異なる考えをもつ他者と意見を交わす能力を高める。 【SGD】【PBL】  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1),2),3) B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也
15	全体のまとめ	病いや障がいの社会的要因や文化的意味について説明できる。  関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1),2),3) B-1-2 1),2),3) B-3-1 1),2)	花淵 馨也

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

**【アクティブ・ラーニング】**

導入している

**【評価方法】**

平常点30%（授業態度、取り組む姿勢） レポート70%  
レポート提出後、希望者には質問に応じる。

**【教科書】**

資料をファイルで配信、またはプリントして配布する。

**【参考書】**

『からだの文化人類学』波平恵美子 大修館書店  
『身体と境界の人類学』浮ヶ谷幸代 春風社  
『医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る』池田光穂&奥野克己共編 学陽書房  
『なぜふつうに食べられないのか』磯野真穂 春秋社  
そのほか授業において適宜紹介する。

**【備考】**

Google Classroomを使用して授業資料の配布や出席確認、宿題やレポート課題提出等を行う。  
Googleスライドやドキュメントを使用してグループワークやディベートを行う。

**【学修の準備】**

予習：講義で出された宿題を行う。予告された授業テーマについてインターネット等で調べておく（120分）  
復習：講義内容についてのまとめを行う。講義で出された課題に取り組む。また、講義で取り上げた内容について、さらに自分で調べる（120分）

**【関連するモデル・コア・カリキュラム】**

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム 1),2),3)  
B-1-2 患者中心の医療 1),2),3)  
B-3-1 地域の保健・医療 1),2)

**【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。  
3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域的及び国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。